

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100849		
法人名	(株) エヌエス		
事業所名	グループホーム なごみの里		
所在地	名古屋市港区東蟹田1001番地		
自己評価作成日	22年1月16日	評価結果市町村受理日	平成22年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成22年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域資源を活用し、お米や野菜を自家栽培しています。時には、利用者様にも芋掘りや夏みかんの収穫を手伝っていただいたりしています。併設のデイサービスのカラオケや白鳥温泉の湯も時には楽しんでいただいております。利用者様、皆様18名を一つの家族と考え、理念の一つである“笑顔の絶えない楽しい暮らし”を目指してご家族や地域の方々、同業者様のお力をお借りして頑張っていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営者所有の田から収穫したお米を利用者に食べてもらい、おいしいと喜ばれている。また、季節の野菜や果物も収穫して、食事やおやつのできる食材として使っている。利用者本位のケアを基本としており信頼関係を築き、意向や要望を活かせる雰囲気作りを心がけている。職員は利用者を共に暮らす家族と思いい、笑いやいたわりの気持ちを持ち、接するようになっている。家族会を今後は年1回から年2回にして色々な声を聞く機会を増やし、それらをケアサービスに活かそうとしている。利用者は日常的に外出している散歩や買物、または外食などに喜び、健康で笑顔が絶えない生活を楽しんでいる。また、地域との交流も積極的に神社の掃除を手伝ったり、ボランティアや中学生の体験学習を受け入れている。近所との協力体制は確立できており、地元根付いているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より、理念をその人らしい生活を大切にする 笑顔の絶えない楽しい暮らし地域に根ざした暮らしとしています。	理念を職員は常に頭に入れており、利用者本位のケアをするよう心がけている。みんなと一緒に笑いを共有できるように「1日1笑」となるようなサービスを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩や近所の買い物、喫茶店等を通して地域の方々との交流を支援できるように努めています。	散歩やスーパーへの買物、喫茶店へ定期的に行っており、利用者も楽しみにしている。また、ハーモニカや絵手紙のボランティアを受け入れたり、隣接するデイサービスのレクリエーションにも出かけている。地元の中学生から体験学習の要望があり、おとしよりのふれあいを体験してもらった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症について触れたり、施設の入り口に介護相談の看板をつけています。またこども110番に加入しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動報告をして、メンバーの方々にご意見をいただき、サービス向上に努めています。	運営推進会議は年4回開催していたが、2月からは2ヶ月毎の開催予定である。運営推進会議で出席者から町内の行事としての神社の掃除に参加してはどうかとの提案があり、利用者職員とで神社の掃除の手伝いを行ったこともある。	運営推進会議で生活の様子や活動報告だけに留まらず、積極的に質疑を受け、今後の運営の指針となるように期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の受け入れを通して、事業所の実情を相談させてもらっています。	介護保険のことでわからないことや、困ったことがあれば区役所の担当者に相談して、助言してもらっている。今後は地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等を通して職員に理解を求めて、日頃より、身体拘束のないケアに取り組んでいます。	日中は玄関の鍵はかけていないが、利用者がエスケープをしたことがあり、家族の理解を得た上で、会議で検討して1、2Fの入口はその時々状況によって鍵をかけている。	鍵をかける前に出来ることを考えて、鍵をかけたことで職員が安心することのないような取り組みを望む。身体拘束についての研修を定期的に行なうことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やマニュアルにて学習しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルにて学習する機会を設けています。また身寄りのない方は権利擁護の機関に支援していただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご説明し、納得していただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時にご要望等を伺うよう心がけ、意見をいただいた場合はなるべく早く反映できるよう、心がけています。	家族会は今後1年に1回から2回に行う予定である。家族の訪問時やイベント開催日には気軽に声をかけて、何でも言いやすい雰囲気作りを心がけている。出された意見や要望は、利用者・家族の理解が得られるよう対応し、できる限りサービスに活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期ですが、個人面談や食事会を設けて、意見を聞いて反映できるように、心がけています。	職員会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けており、意見を全体場で検討することもある。管理者は職員と面談や食事会を行ない、交流を持つように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績を把握して、向上心を持って働いてもらえるように、日々努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修がある場合、職員全員に周知し、力量をみて、研修の声かけを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会や親睦会に参加してもらい、同業者との交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が生活に困らないように耳を傾け、ご本人に合った、個々の対応、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご希望を伺い、なるべく叶えられるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご事情によっては、他のサービスを紹介させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、サービスを受けてもらう一方、料理の仕方や野菜の作り方等、色々な生活の知恵を利用者様より教えてもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	絆を大切にしながら時には間柄の修復にも努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の思いを大切にしながら関係が維持できるように支援させてもらっています。	馴染みの人との関係が途切れることのないよう家族や友人の訪問を歓迎し、住んでいた地域の情報などを聴き、友好を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1ユニットを一つの小さな社会として、人間関係が上手くいくように、支援させてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても他施設へ伺い、近況を聞かせてもらっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご希望が叶えられるよう、日々努めています。	散歩のあとや入浴時など、利用者がリラックスして気分のいい時に思いや意向を聞き出したり、みんなで外出に出かけたときに好きな食べ物を聞き出している。また比較的時間に余裕のある夜勤の時間帯にいろいろな話しをしながら思いや意向、悩みなどの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族より伺ったり、日々の生活の中で、ご本人より伺い把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を職員同士、申し送り等で把握し、その方に合った対応を心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のフロア会議にて職員同士話し合ったり、面会時にご家族に相談してケアプランを作成しています。	2週間に一度協力医の往診があり、それ以外に週に一度看護師の訪問がある。“相談ノート”を通して医師や看護師に相談しながらアドバイスももらっている。本人や家族の希望も確認しながらケアマネージャーと職員で検討し介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フロア毎の連絡帳にて情報を共有し、必要があれば、ケアの対応や見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様本位のサービスができるよう、常に心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	信仰心の強い方には神社参り、コーヒーのお好きな方は近所の喫茶店へ、買い物がお好きな方はスーパーにお誘いするという具合に個別に対応させてもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について伺い、事業所の協力医の先生に日常は任せてもらえるように説明させてもらっています。	ほとんどの利用者が入居時にホームの協力医をかかりつけ医とし、本人と家族から理解と同意を得ている。皮膚科などの専門医の受診については基本的には家族にお願いするが家族の都合によっては職員が同行し無理なく適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	フロア毎に看護師ノートがあり、日常の相談を書き込んで相談しています。また連絡体制も整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、すぐにお見舞いに伺い、情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護をさせてもらっていることをご家族に説明させてもらっています。また必要があると予想される方には早めにご家族に相談させてもらっています。	医療行為が必要になれば入院となり、これまで実際にホームで看取りを行った例はまだない。本人や家族の希望に添えるようにできるところまではホームでお世話をしたいとの方針を示しその体制を備えている。	終末期の体制を整え、入居の際に利用者・家族に説明をしていくことを望む。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや救急講習にて対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っています。	昼間と夜間を想定し年2回の避難訓練を実施している。そのうちの1回は、地域の消防団員や住民の参加が多数得られタンカや水消化などの訓練もおこなったこともある。前回は総勢100人程の大掛かりなものとなった。3日間の食料と水の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様本位の対応や言葉かけを心がけています。	否定的なことばを使わず肯定的に受け止める姿勢での対応を心がけている。トイレへの誘導はさりげなく行き本人の自尊心を損ねないように心配りをして、人格の尊重やプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より細かな観察を行い、話しやすい、表現しやすい環境作りを目指しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人、おひとりのペースを大切にゆとりある生活を送っていただけるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしくおしゃれができるよう、配慮し、支援させてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に伺い、食べたい物を献立に入れたり、力に応じて、お手伝いをさせていただいています。	おやつの時間に好みを聞いたりしている。食事の準備や片付けは無理強いをせずできることをお願いして職員が一緒に行っている。“ごぼうのささがき”が得意な利用者もいて照れながらもみんなの推薦で自然に出番となっている。月に一度は外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量を記録しています。また必要があれば、個別にて水分量も記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥予防のためにも口腔ケアは毎食後しっかり行ってもらっています。力に応じた対応をさせてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、なるべくトイレにて排泄していただけるように、支援させてもらっています。	排泄記録を活用しながら個々の利用者に合わせてさりげなくことばを掛けトイレ誘導を行っている。体調を崩している時には特に様子を見ながら配慮している。紙パンツから布パンツに変わった例も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩、乳製品を積極的に摂る、腹部マッサージを行う等をして、なるべく薬に頼らない排泄を心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、タイミングや声かけの方法情報を共有して、気分良く入っていただけるように、努めています。時にはご家族にも声かけを手伝っていただきます。	今のところ週に3回のペースで入浴を希望する人が多い。拒否する人には時間差をとったり散歩に連れ出して気分がよくなったときに再度声を掛けたりしている。また時には家族に促しをお願いしたり対応策を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人、おひとりお好きなように生活していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会等にて全職員が把握できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を活かしていただけるように、支援させてもらっています。また、気分転換に月に一度の外出や2週間に一度、喫茶店へ行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族にも協力を求め、お買い物や馴染みのある場所へお出かけしてもらっています。また地域の方にも協力を得ています。	利用者の外出希望に添って支援している。利用者のお気に入りの店や馴染みの場所へはよい関係を維持することへの配慮から家族へお願いすることもある。また本人が信心する場所などへの外出には地域の人の協力もある。行事に組み込まれた外出や外食の機会も多く、散歩には雨が降らない限り出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力に応じて対応させてもらっています。できる限りご本人の希望を優先し、所持できるように支援させてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけていただけるように配慮しています。またご本人のご希望により代筆も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭には四季折々の木々が植えてあり、いつでも日本の四季が感じられるように設計されています。	庭に咲いた季節の花々がさりげなく室内に活かされている。窓は大きく取られており室内がとても明かるい。壁には利用者と一緒に作った壁飾りがある。また、ソファの配置が利用者が寛ぎやすい配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人でデッキにて日向ぼっこをされたり、ソファで横になられたりと、お好きなように日々過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時馴染みのある物をお持込いただけるように説明させてもらっています。	利用者は個々に仏壇やタンス、ソファや家族の写真など馴染みの生活用品を持ち込んでいる。それぞれに趣のあるその人らしい生活の場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字を大きくしたり、目印をつけたりして、わかりやすくする工夫を行っています。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	日々の散歩の時には挨拶を積極的にしたり、スーパーへ買物に行き、月2回喫茶店へ出かけ地域の人々との交流を図っている。ボランティアのハーモニカや絵手紙などや、中学生の体験学習の受け入れもなっている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	運営推進会議は今までは2ヶ月毎ではなかったが、今後は定期的に開催することになり、地域包括支援センター職員も出席する予定である。議題が活動報告に留まっているので、今後は運営推進会議を活かした取組みができることを目標としている。	×
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	介護保険のことでわからないことや、困ったことがあれば区役所の福祉課に相談して助言してもらい、連携を図っている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族会は今までは年1回だったが、今後2回開催する予定である。家族会や来訪時には家族からの意見や要望は聞いている。家族から職員の名前がわからないという意見が出たので、職員で相談して、エブロンに名前を書いてすぐに対応している。	○
重点項目⑤	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	×
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	×
総合評価		×

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域とは深い関わりがあり、協力体制は構築されている。今後は運営推進会議が年6回、家族会も年2回となり、より地域や家族と密接な関わりができることを望んでいる。四季折々の野菜や果物を収穫する楽しみがあり、グループホーム全体が穏やかで笑顔の絶えないホームである。管理者は介護に情熱を持って日々利用者に関わっており、職員ともお互いに思いやりを持って業務に携わっている。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

（注）要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

